

「愛に歩む」

2018年08月14日

ヨハネの手紙 二 1節～6節 長老のわたしから、選ばれた婦人とその子たちへ。わたしは、あなたがたを真に愛しています。わたしばかりでなく、真理を知っている人はすべて、あなたがたを愛しています。それは、いつもわたしたちの内にある真理によることで、真理は永遠にわたしたちと共にあります。父である神と、その父の御子イエス・キリストからの恵みと憐れみと平和は、真理と愛のうちにわたしたちと共にあります。

あなたの子供たちの中に、わたしたちが御父から受けた掟どおりに、真理に歩んでいる人がいるのを知って、大変うれしく思いました。さて、婦人よ、あなたにお願いしたいことがあります。わたしが書くのは新しい掟ではなく、初めからわたしたちが持っていた掟、つまり互いに愛し合うということです。愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです。

ヨハネの手紙（二）は、冒頭に「長老のわたしから」と記し、著者が「ヨハネ教団」の長老であると書いている。皆に信頼されていた、信仰の篤い大長老が書いたのであろう。手紙のあて先を「選ばれた婦人とその子たちへ」と限定している。子どもたちを諭す信仰の言葉は「箴言」などに多く記されているが、「婦人」に関しては、どちらかと言うと、非難する言葉が多く、信仰を諭すという書き方は極めて珍しい。パウロは、ガラテヤ書3章23節で、「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」と、同等であると書いている。ところが、コリント書（一）14章34節、35節では、「婦人たちは、教会では黙っていなさい。婦人たちには語る事が許されていません。律法も言っているように、婦人たちは従う者でありなさい。何か知りたいことがあったら、家で自分の夫に聞きなさい。婦人にとって教会の中で発言するのは、恥ずべきことです」と、書いている。このように夫に従属するようにと蔑視されていた婦人たちに、長老は愛をもって呼び掛けている。「わたしは、あなたがたを真に愛しています。わたしばかりでなく、真理を知っている人はすべて、あなたがたを愛しています」と、著者だけでなく、教会に集っている全ての人が婦人と彼女たちの子どもを愛していると書いている。長老は弱い立場に置かれている人々に目を留め、愛する、心豊かな人であったことが分かる。

長老は、あなたがたを愛する理由を、いつも私たちの内にある真理は、永遠に私たちと共にあるからであると言っている。「父である神と、その父の御子イエス・キリストからの恵みと憐れみと平和は、真理と愛のうちにわたしたちと共にあります。」父なる神と御子イエスからの恵みと憐れみと平和が与えられている。主イエスから示された真理と愛の内に共にあり、互いに愛し合っていると語りかけている。

そして、「あなたの子供たちの中に、わたしたちが御父から受けた掟どおりに、真理に歩んでいる人がいるのを知って、大変うれしく思いました」と、あなたの子どもたちが掟に従って、真理に生きているのを知って喜んでいる。「さて、婦人よ、あなたにお願いしたいことがあります」と言葉を改め、「わたしが書くのは新しい掟ではなく、初めからわたしたちが持っていた掟、つまり互いに愛し合うということです」と諭している。そして、「愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです」と、愛し合って生きるよう、繰り返し勧めている。